

【参考 2】

平成17年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況及び10a 当たり収量内訳
(全国農業地域別)

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程三等以上の品位を有し、かつ、ふるい目幅1.70mm以上に選別された玄米の重量としている(【参考4】参照)。

農家等が販売するために使用している選別ふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、ふるい目幅の重量割合とふるい目幅別10a当たり収量示すと次のとおりである。

単位 { 重量割合 : %
平均対差 : ポイント

区分	合計	ふるい目幅						
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm	
全国農業地域								
全 国								
重量割合	本年値	100.0	71.2	20.5	3.6	2.3	1.4	1.0
	平均対差		5.4	△ 3.4	△ 1.0	△ 0.6	△ 0.3	△ 0.1
北 海 道								
重量割合	本年値	100.0	78.4	16.3	2.2	1.5	0.9	0.7
	平均対差		9.1	△ 6.6	△ 1.0	△ 1.1	△ 0.4	0.0
東 北								
重量割合	本年値	100.0	74.5	18.6	3.1	2.0	1.1	0.7
	平均対差		5.1	△ 3.0	△ 1.0	△ 0.6	△ 0.3	△ 0.2
北 陸								
重量割合	本年値	100.0	75.1	18.7	2.6	1.9	1.0	0.7
	平均対差		5.7	△ 3.7	△ 1.2	△ 0.5	△ 0.2	△ 0.1
関東・東山								
重量割合	本年値	100.0	67.0	23.8	3.9	2.7	1.5	1.1
	平均対差		8.9	△ 5.3	△ 1.9	△ 0.9	△ 0.5	△ 0.3
東 海								
重量割合	本年値	100.0	77.2	16.0	3.1	1.7	1.1	0.9
	平均対差		4.8	△ 2.8	△ 0.9	△ 0.5	△ 0.4	△ 0.2
近 畿								
重量割合	本年値	100.0	73.2	18.5	3.3	2.5	1.4	1.1
	平均対差		5.6	△ 4.0	△ 0.5	△ 0.5	△ 0.4	△ 0.2
中 国								
重量割合	本年値	100.0	75.5	17.6	3.1	1.9	1.0	0.9
	平均対差		6.6	△ 4.1	△ 0.9	△ 0.8	△ 0.6	△ 0.2
四 国								
重量割合	本年値	100.0	63.9	24.4	5.7	2.8	1.9	1.3
	平均対差		2.6	△ 1.8	△ 0.4	△ 0.1	△ 0.3	0.0
九 州								
重量割合	本年値	100.0	55.5	29.2	6.7	4.1	2.6	1.9
	平均対差		△ 2.9	1.2	0.6	0.5	0.2	0.4

単位 : kg

区分	10a当たり 収 量 (1.70mm選別)	選別ふるい目幅別10a当たり収量				
		2.00mm 選別	1.90mm 選別	1.85mm 選別	1.80mm 選別	1.75mm 選別
全国農業地域						
全 国	532	379	488	507	519	527
北 海 道	573	449	543	555	564	569
東 北	563	419	524	542	553	559
北 陸	534	401	501	515	525	530
関東・東山	543	364	493	514	529	537
東 海	500	386	466	482	490	496
近 畿	516	378	473	490	503	510
中 国	516	390	480	496	506	511
四 国	489	312	432	460	473	483
九 州	474	263	401	433	453	465

- 注 : 1 平均対差に用いた平均値は、直近3カ年の重量割合の平均値である。
 2 選別ふるい目幅別10a当たり収量とは、表頭のふるい目幅を使用した際に得られる10a当たり収量のことである。
 3 台風等により未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。

【参考 3】

農家等が使用した選別ふるい目幅の分布

【平成17年産水稻作況標本(基準)筆農家からの聞き取り結果】

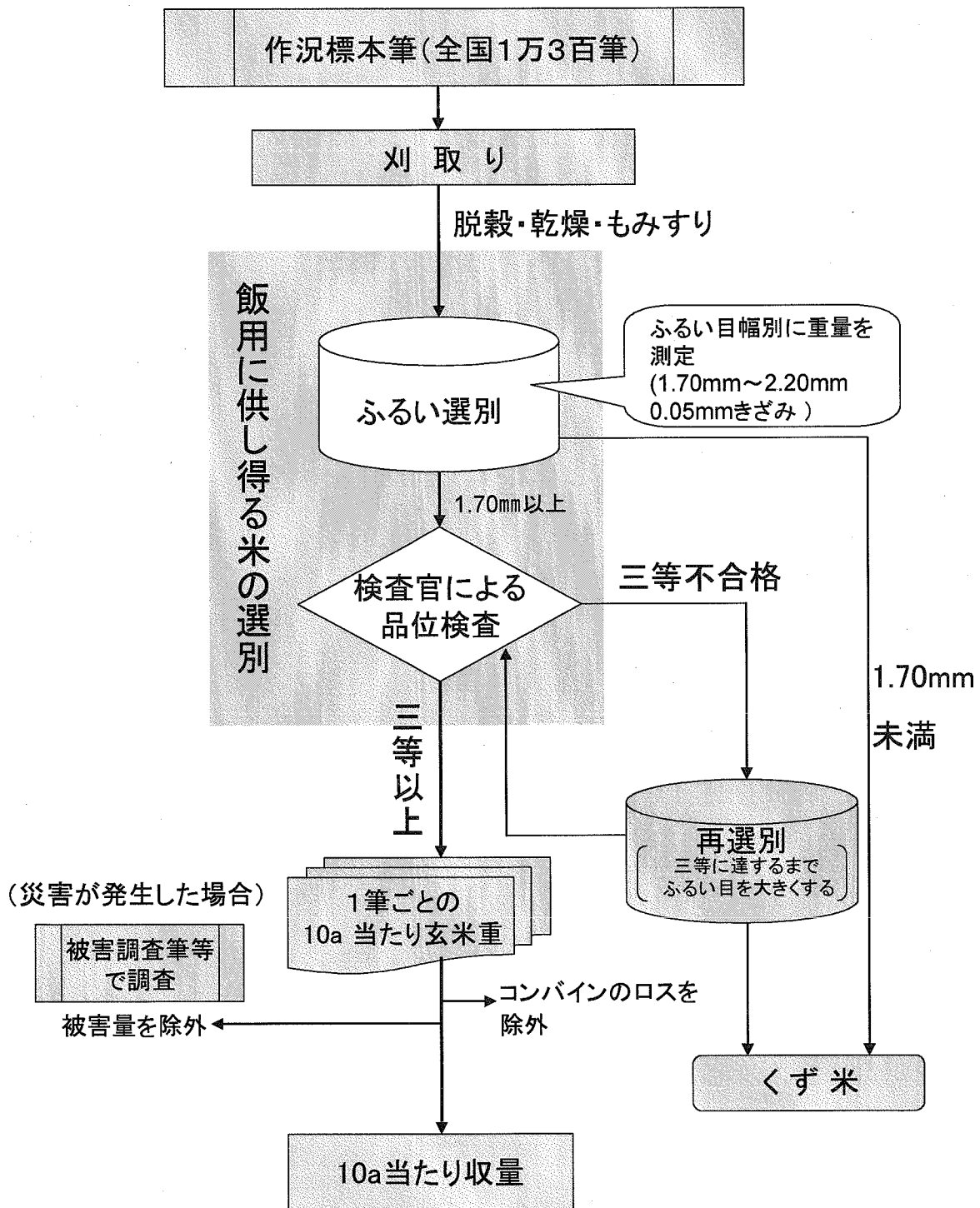
単位：%

全国農業地域	計	2.0mm 以上	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
全 国	100.0	2.2	25.5	36.9	29.0	5.3	1.1
北 海 道	100.0	26.8	67.6	5.5	-	0.1	-
東 北	100.0	0.1	75.0	22.7	2.2	0.0	-
北 陸	100.0	1.8	27.7	64.0	5.9	0.5	0.1
関東・東山	100.0	0.3	2.6	39.8	39.1	14.9	3.3
東 海	100.0	-	12.5	35.6	43.7	5.4	2.8
近 畿	100.0	2.7	5.6	32.4	48.2	10.1	1.0
中 国	100.0	0.3	7.0	72.2	19.6	0.6	0.3
四 国	100.0	-	0.4	10.7	75.3	12.7	0.9
九 州	100.0	0.1	3.4	36.7	53.7	4.8	1.3

注：九州には沖縄県を含む。

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る米の全量を把握することを目的として、作況標本筆(【参考5】参照)ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程三等以上の品位を有し、かつ、粒厚が1.70mm以上となるように玄米の選別を行い、その重さを計測している(下図参照)。

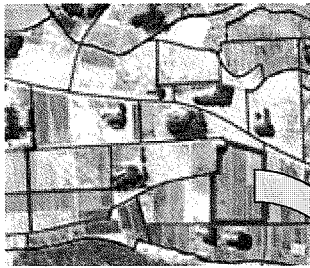


【参考 5】

作況標本筆^{ふで}とは

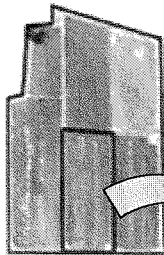
収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆(1枚のほ場を筆と呼びます。^{ふで})は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて以下のように各地で選定し(全国で約1万300筆)、調査している。

都道府県内の全耕地
(母集団)



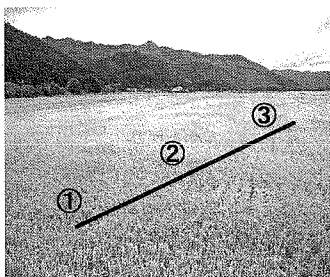
- ① 都道府県ごとの耕地を、2 haの区画に区切った単位区の集まり(調査母集団)として整理し、その中の水田を含むものから、無作為抽出法(人間の恣意を排したくじ引きの様な選び方)により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
(約2 ha)



- ② 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
(全国で約1万300筆)



- ③ 各作況標本筆の対角線上の3ヵ所を実測調査力所として、サンプル採取(坪刈り)を行っている。

関連するデータ、情報

【累年表】

水陸稲（子実用）の年次別推移（全国）

年 産	水 陸 稲 計		水 稲				
	作付面積 <i>ha</i>	収 穫 量 <i>t</i>	作付面積 <i>ha</i>	10a 当たり 収 量 <i>kg</i>	収 穫 量 <i>t</i>	作 況 指 数	10a 当たり 平 年 収 量 <i>kg</i>
昭.30	3 222 000	12 385 000	3 045 000	396	12 073 000	118	335
31	3 243 000	10 899 000	3 059 000	348	10 647 000	104	335
32	3 239 000	11 464 000	3 075 000	364	11 188 000	107	339
33	3 253 000	11 993 000	3 080 000	379	11 689 000	108	350
34	3 288 000	12 501 000	3 105 000	391	12 158 000	109	360
35	3 308 000	12 858 000	3 124 000	401	12 539 000	108	371
36	3 301 000	12 419 000	3 134 000	387	12 138 000	102	380
37	3 285 000	13 009 000	3 134 000	407	12 762 000	105	389
38	3 272 000	12 812 000	3 133 000	400	12 529 000	101	395
39	3 260 000	12 584 000	3 126 000	396	12 362 000	99	398
40	3 255 000	12 409 000	3 123 000	390	12 181 000	97	403
41	3 254 000	12 745 000	3 129 000	400	12 526 000	99	403
42	3 263 000	14 453 000	3 149 000	453	14 257 000	112	403
43	3 280 000	14 449 000	3 171 000	449	14 223 000	109	413
44	3 274 000	14 003 000	3 173 000	435	13 797 000	102	425
45	2 923 000	12 689 000	2 836 000	442	12 528 000	103	431
46	2 695 000	10 887 000	2 626 000	411	10 782 000	93	440
47	2 640 000	11 889 000	2 581 000	456	11 766 000	103	442
48	2 620 000	12 144 000	2 568 000	470	12 068 000	106	444
49	2 724 000	12 292 000	2 675 000	455	12 182 000	102	446
50	2 764 000	13 165 000	2 719 000	481	13 085 000	107	450
51	2 779 000	11 772 000	2 741 000	427	11 699 000	94	455
52	2 757 000	13 095 000	2 723 000	478	13 022 000	105	455
53	2 548 000	12 589 000	2 516 000	499	12 546 000	108	460
54	2 497 000	11 958 000	2 468 000	482	11 898 000	103	466
55	2 377 000	9 751 000	2 350 000	412	9 692 000	87	471
56	2 278 000	10 259 000	2 251 000	453	10 204 000	96	474
57	2 257 000	10 270 000	2 230 000	458	10 212 000	96	477
58	2 273 000	10 366 000	2 246 000	459	10 308 000	96	478
59	2 315 000	11 878 000	2 290 000	517	11 832 000	108	479
60	2 342 000	11 662 000	2 318 000	501	11 613 000	104	481
61	2 303 000	11 647 000	2 280 000	508	11 592 000	105	484
62	2 146 000	10 627 000	2 123 000	498	10 571 000	102	487
63	2 110 000	9 935 000	2 087 000	474	9 888 000	97	490
平.元	2 097 000	10 347 000	2 076 000	496	10 297 000	101	492
2	2 074 000	10 499 000	2 055 000	509	10 463 000	103	494
3	2 049 000	9 604 000	2 033 000	470	9 565 000	95	497
4	2 106 000	10 573 000	2 092 000	504	10 546 000	101	498
5	2 139 000	7 834 000	2 127 000	367	7 811 000	74	499
6	2 212 000	11 981 000	2 200 000	544	11 961 000	109	499
7	2 118 000	10 748 000	2 106 000	509	10 724 000	102	501
8	1 977 000	10 344 000	1 967 000	525	10 328 000	105	502
9	1 953 000	10 025 000	1 944 000	515	10 004 000	102	504
10	1 801 000	8 960 000	1 793 000	499	8 939 000	98	507
11	1 788 000	9 175 000	1 780 000	515	9 159 000	101	512
12	1 770 000	9 490 000	1 763 000	537	9 472 000	104	518
13	1 706 000	9 057 000	1 700 000	532	9 048 000	103	518
14	1 688 000	8 889 000	1 683 000	527	8 876 000	101	522
15	1 665 000	7 792 000	1 660 000	469	7 779 000	90	524
16	1 701 000	8 730 000	1 697 000	514	8 721 000	98	525
17	1 706 000	9 074 000	1 702 000	532	9 062 000	101	527

資料：農林水産省統計部『作物統計』による。

【調査の仕様】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び稲調査の中の水陸稲の収穫量調査として実施し、水陸稲の作付面積、作柄状況、収穫量を明らかにすることにより、生産対策、技術指導等の農林水産行政推進のための基礎資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

調査は、全国の各都道府県を対象に行っている。

なお、全国農業地域の区分は、次のとおりである。

全国農業地域	所属都道府県名
北海道	北海道
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
北陸	新潟、富山、石川、福井
関東・東山	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野
東海	岐阜、静岡、愛知、三重
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国	徳島、香川、愛媛、高知
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島
沖縄	沖縄

3 調査期日

(1) 作付面積調査

ア 水稲：7月15日現在

イ 陸稲：収穫期

(2) 収穫量調査

水陸稲：収穫期

4 調査方法

(1) 作付面積調査

ア 水稲：調査は、標本単位区に対する職員による実測調査及び巡回・見積りにより取りまとめた。

イ 陸稲：調査は、職員による関係団体に対する面接調査、巡回・見積りにより取りまとめた。

(2) 収穫量調査

ア 水稲：調査は、作況標本筆、基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査及び巡回・見積りにより取りまとめた。

イ 陸稲：調査は、職員による関係団体に対する面接調査、作況基準筆及び被害調査筆に対する実測調査及び巡回・見積りにより取りまとめた。

5 調査客体数

(1) 作付面積調査

ア 水稲

標本単位区：37,901単位区 巡回・見積り：2,397市町村

イ 陸稲

面接調査：3,616団体等 巡回・見積り：2,397市町村

(2) 収穫量調査

ア 水稲

作況標本筆：10,284筆 基準筆：1,283筆 巡回・見積り：2,397市町村

イ 陸稲

面接調査：3,084団体等 基準筆：42筆 巡回・見積り：2,397市町村

6 用語の解説

- 10a当たり平年収量とは、水稲の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいう。

- 被害面積とは、農作物に損傷を生じ、被害なかりせば収量（その被害が発生しなかったと仮定した場合にとれ得ると見込まれる収量）から減収した面積をいう。

- 被害量とは、農作物の栽培が開始されてから収納されるまでの期間に、災害等によって損傷を生じ、被害なかりせば収量（その被害が発生しなかったと仮定した場合にとれ得ると見込まれる収量）より減収した量をいう。

○この統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の農林水産統計データに掲載しています。

【<http://www.maff.go.jp/www/info/index.html>】

分野分類は「面積・収穫量（米・麦・豆等）」、品目別分類は「米」に分類しています。

○米に関する累年データは、農林水産省ホームページ中の農林水産統計情報総合データベースに掲載しています。【<http://www.tdb.maff.go.jp/toukei/toukei>】

【関連リンク】

米関係ページ：農林水産省＞食料 <http://www.maff.go.jp/syokuryo.html>
農林水産省＞生産 <http://www.maff.go.jp/seisan.html>

食料・農業・農村基本計画：

<http://www.maff.go.jp/soshiki/kambou/kikaku/kihonkeikaku.html>

米政策改革情報ページ：<http://www.syokuryo.maff.go.jp/>

全国米穀取引・価格形成センター：<http://www.komekakakucenter.jp/>

問い合わせ先

◎本統計調査結果について

連絡先：農林水産省 大臣官房 統計部
生産流通消費統計課 面積統計班 内線2828
普通作物統計班 // 2831
電話：(代表) 03 (3502) 8111
(直通) 03 (3591) 4604

◎農林水産統計全般について

連絡先：農林水産省 大臣官房 統計部
統計企画課 広報普及班 内線2675
電話：(代表) 03 (3502) 8111
(直通) 03 (3501) 3710